

今日からアナウンサー



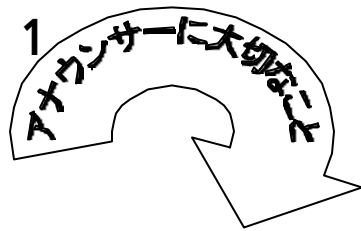
アナウンス講習会資料

今日からアナウンサー

もくじ



1, アナウンサーに大切なこと	・・・	P 3
2, 発声練習	・・・	P 4
3, 聞きやすい話し方	・・・	P 5
4, 口の形 口の運動	・・・	P 6
5, 発声練習表	・・・	P 7
6, マイクの正しい使い方	・・・	P 8
7, 読む早さの連習	・・・	P 9
8, よくよりの練習	・・・	P 10
9, 後かたづけも大切な仕事	・・・	P 11
原稿用紙	・・・	P 12



アナウンスを始める前に

校内放送を聞いていると、時々ふざけた声や笑い声が聞こえてきます。これはアナウンサーとしての、思いやりが足りないからだと思います。だれからも、喜んでもらえるアナウンスをする

ためにもいくつかのことを心がけましょう。

放送室に行くときは、走らず落ち着いていきましょう。息がハアハアしては、正しい発音ができません。

放送室のドアは静かに閉めましょう。日頃からくせを付けておくと、放送中でも大きな音を立てないですみます。



アナウンスがすんだ後は

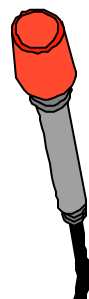
アナウンスが終わったからといって、いい加減な気持ちになったり、ふざけてはいけません。放送室から出るまでは、アナウンサーでいましょう。この気持ちが次からの放送にも生かされると思います。

マイクを元に戻し、^{げんこう}原稿をていねいに片づけましょう。自分の使うものを大切にすることは、次の人が気持ちよく使えることにもなるのです。

読みまちがえたり、つかえたりしたときは、あわてずにもう一度言い直しましょう。

今日の放送はどうだったでしょうか？自分でしっかり振り返るように、日誌をつけておくことはとてもいいことです。今日の反省がきっと次に役立ちますよ。

放送室を出るときは、電源などの消し忘れに注意してくださいね。『アナウンスマイクのスイッチが、うっかりはいついた』なんてことがあると大変です。



第一声に注意して話し始めよう

時間を守って、きん張しないようにそして息を整えてから話し出しましょう。

声が大きすぎたり、小さすぎたりしないように。

声がかすれないように。(聞きやすい話し方にくわしくのっています)



言いまちがえたらどうしよう

「あっ」「いけねっ」「はははは...」
では聞いている人が、いやな気持ちになります。まちがえたときにこんな言葉を言うのはやめましょう。ふざけずに落ち着いて、アナウンスしてください。

セキをしたくなったらどうしよう

できるだけマイクを遠ざけて、できればハンカチで口を押さえて、せきをしましょう。

席をはなれるところまで、なるべく音を立てずに座っていきましょう。変な音が入ってしまっは、せっかくの放送もだいなしになってしまいます。

なれてくると、^{げんこう}原稿を書かずに思いつきでアナウンスしてしまうことがあります。考えたことを伝えるのにはよくない表現や、聞いていてわかりにくい表現になってしまうかもしれません。

前もって原稿を書いておくことはとても大切なことです。

放送終了後、次の放送の原稿を書いておくこともいいことだと思います。

^{めんどう}面倒くさがらず、原稿を用意しましょう。



2 発声練習

今日の声の調子はどうかな？

朝、放送室に来たら、原稿を読む前に発声練習をしていますか？発声練習は、その日の声の調子を知るためにとても大切なことなんです。

いつも発声練習をしていると、こんなことに気づきます。

「今日は、声がかすれているな。」「どうも早口になっちゃう。」「今日はカミそくだ、あわてずに話そう。」「サ行の音がまちがえやすい。」

声の調子だけでなく、気分や体の調子までわかるんですよ。どんな話し方をしたらいいか、どのようなことに気をつけて発声練習をするといいのでしょうか。

発声練習は毎日しましょう。

大きく口を開けて、おなかから声を出すようにしましょう。口を開けることはとても大切なことです。「大きくあけよう」と少し意識してみましょう。本番の時に口が小さくなり、もごもごとしたはっきりしない声になってしまうための練習です。

1音ずつ切って練習しましょう。はっきりと聞きやすい発音を目指しましょう。

鏡の前で自分の口の開け方をみながら練習しましょう。

鏡に口をうつしながら練習すると、小さく口を開けているのか、大きくあけているのかよくわかります。

はじめはうまくいなくても、練習するとどんどん上達します。



3 聞きやすい話し方

心がなごむ話し方をするには

内容のあるすばらしい原稿でも、アナウンスの仕方が悪いと、放送がだいなしになってしまいます。みんなに聞いてもらえるようにするには、どんな話し方をすればいいのでしょうか。

口を大きく開けて、はっきりと

口を少し開けて、次の文を言ってみましょう。

「そうじ時間です。校舎のすみずみまで、きれいにしましょう」
どうですか？口を小さく開けていると、モゴモゴして聞きづらいですね。



今度は、大きく開けて、同じことを言ってみましょう。はっきりして、聞きやすかったことが分かります。

ふだんから、口を大きく開けては指すことも言い練習になると思います。

話しかけるようにして

放送を聞いていると、原稿をただ読んでいるだけのアナウンスをしている人がいます。これは聞いていてもいい感じがしませんね。目の前にだれもないから、話しにくいとは思いますが、だれがいるつもりになって、話しかけるようにしてみましょう。

声の大きさに気をつけよう

あまりにも大きすぎる声や、逆にボソボソと小さい声は、聞きにくいですね。突然大きな声を出すのは、特にしてはいけません。音量を調節しているミキサーの人が、きっと冷や汗をかいていると思います。

声や音が大きすぎると、スピーカーがビリビリして、「音が割れる」ことがあります。音が割れてしまうと、聞きづらいだけでなく、とても耳ざわりで、いやな気持ちにさせてしまいます。

これではアナウンサーといえません。声の大きさに気をつけてアナウンスするように心がけましょう。

よくよう（イントネーション）

聞いている人を、飽きさせてしまう読み方に、「ぼう読み」があります。ぼう読みとは、同じ調子で読むことで、聞いている人にはとても聞きづらく、意味が伝わりにくいものです。

オーバーにつけすぎても、聞いている人へ、^{ふゆかい}不愉快な思いをしてしまいます。気持ちを込めて読むことが大切です。

また、多く聞くのが「^{こび}語尾上がり言葉」です。どんな言葉でも。語尾を上げてしまえば、すべてが一本調子になってしまい、気持ちも伝わりません。



間の取り方を考えましょう

次の文を区切らず、続けて読んでみましょう。
「これから朝の放送を始めます。」

今度は、スペースを見ながら、間を取って読んでみましょう。

「これから 朝の放送を 始めます。」

さあ、どちらが聞きやすいでしょうか？原稿を必ず一度読んでみて、間を空けるところに、印をしておくと言います。

読む早さに気をつけましょう

読む早さについては、だいたい1分間に400文字程度がいいとされています。この練習の仕方は400字の原稿を、時計を見ながら、何度も読んで、読む早さを覚えることです。

読みまちがえは、あわてず、笑わずに

「今日は、とても・あついけない クックック・・・」

こんな放送を聞いたことはありませんか？聞いている人にとって、これほどいやな思いはありません。まちがえても笑ってごまかしたりしないで、「今日は・失礼しました 昨日はとても暑い一日でしたね。」とまじめに言い直しましょう。これなら聞いている人にもいやな印象を与えなくて済みます。

ただ、まちがえるたびに「失礼しました」を連発するのは逆に聞きづらくなります。原稿は前もって、読む練習しておくことが大事です

4

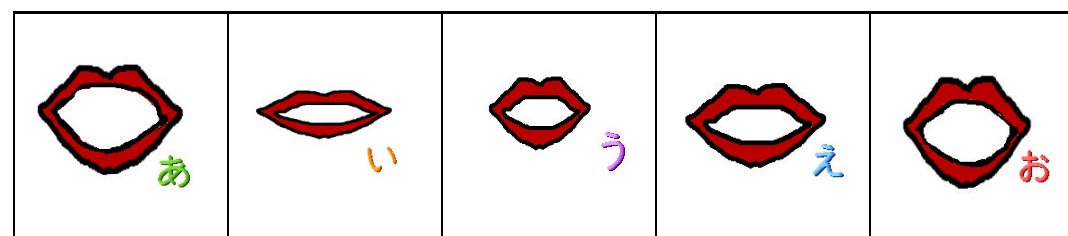


さあ、^{じっさい}実際に声に出してやってみましょう。

「あ・い・う・え・お」つまり母音を発声するときの口の形は、下の絵のような形が基本です。鏡の前で「あいうえお」と言ったときに、下の絵のような形になっているかチェックし練習してみましょう。

上手になったら「かきくけこ」「さしすせそ」と、順々に練習してみましょう。口の形は「あいうえお」と同じです。

《くちのかたち》



口の形を覚えたらいよいよ口の形の練習です。さあゆっくりと口を大きく動かして・・・

アエイウエオアオ
カケキクケコカコ
キャキエキキユキエキョキャキョ
サセシスセソサソ
シャシエシイシユシエシヨシャシヨ
タテチツテトタト
ニヤニエニイニユニエニヨニヤニヨ
ハヘヒフヘホハホ
ヒヤヒエヒイヒユヒエヒヨヒヤヒヨ
マメミムメモマモ
ミヤミエミイミユミエミヨミヤミヨ
ヤエイユエヨヤヨ

ラレリルレロラロ
リヤリエリイリユリエリヨリヤリヨ
ワエイウエオワオ
ガゲギグゲゴガゴ
ギャギエギイギユギエギョギャギョ
ザゼジズゼゾザソ
ジャジェジイジュジェジヨジャジヨ
ダデヂヅデドダド
バベビブベボバボ
ビャビエビイビユビエビヨビャビヨ
パペピプペポパポ
ピャピエピイピユピエピヨピャピヨ

5 発声練習券

口の形を意識してはっきりと発声しよう

ア行 青いインクと赤い色鉛筆で絵をかいた
 カ行 となりの客はよくかき食う客だ
 サ行 貨客船の旅客は 貨客といっしょで旅客料金が安い
 タ行 このすしは 少しすが ききすぎだ
 ナ行 春分の日と秋分の日
 ハ行 向こうの竹がきに 竹 立てかけた
 マ行 東京都の地質を調査して 知識を得た
 ヤ行 のんびり野原に ねころんでいた
 ラ行 なせばなる なさねばならぬ何事も
 ワ行 百人一首大会の批評があった
 ガ行 特派員が東北地方に報告をした
 ギ行 けむりが目にしみて 前も後ろも見えません
 デ行 みょうな名字の ミュージシャン
 ト行 山寺の ヤマユリ
 ナ行 湯河原によって ゆっくりと湯に入った
 ニ行 言い表されねばならない
 ホ行 ランドセルの中は からっぽだ
 ヘ行 忘れ物をわたします
 ケ行 がんこなおやじが ガミガミとどなった
 コ行 ゴワゴワと ざわめいた
 サ行 代々 大事にしてきた大工道具を だいなしにした
 シ行 坊主がびょうぶに じょうずに坊主の絵をかいた
 ス行 パイとパイナップルを持ってピクニックに行った



6 マイクの正しい使い方

マイクを正しく使うととても聞きやすくなる

どんなに話がじょうずでも、マイクを正しく使わないと、アナウンスがだいなしになってしまいます。アナウンサーだからこそ、マイクの正しい使い方を知って、すてきな声を校内にひびかせましょう。



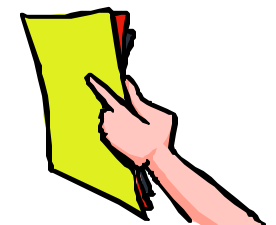
マイクはいつも真ん中に置きましょう。机のはじの落ちそうなどころには置かないでください。マイクはとてもこわれやすいので、下に落としたりしたら大変！使わないときも決して、はじめには置かないように気をつけましょう。

アナウンスするときは、声がまっすぐはいるように、顔の正面に置きましょう。

そして、顔とマイクの距離は息のかからない、10cmくらい離れたところに置くと、安定した声がマイクに入ります。

原稿を読見ながらアナウンスするときは、原稿をマイクの後ろに置きましょう。これは原稿をめくるときに、紙の音をひろわないためなのです。もちろん、原稿は静かにめくるようにしましょう。

マイクは持たないで話しましょう。座ったまま原稿を読むアナウンサーで、マイクを持ったまま話し始めている人を見かけます。マイクにさわっていると、少し動いただけでもそれが大きな音となって放送されてしまいます。



マイクのスイッチは使わないようにしましょう。切ったり入れたりするだけで、「パチッ」と大きな音がしてしまいます。

音を立てないように、ガンバリましょう

7
読む早さの練習

あわてないで 読めるかな

時計の用意はいいですか？400字の原稿を1分程度で読んでみましょう。



これから、お昼の放送を始めます。今日の番組は、放送委員会の紹介です。私たち放送委員会は、月曜日から土曜日まで、毎日放送しています

朝の放送は、一日が気持ちよく始まるように、すてきな音楽をかけています。昼の放送は、みなさんに大切なことを知らせる番組や、楽しんでもらえる番組などを放送しています。帰りの放送は、下校時刻を知らせる番組をかけています。

スタッフは、4～5人で、ミキサーとアナウンサーとに分かれています。いっしょに番組づくりをしています。

ミキサーは、おもに放送機器（まきさー）を操作したり、朝会や集会で使うマイクの準備をしたりしています。

アナウンサーは、お話をするほかに、取材をしたり、放送原稿を書いたりしています。どちらも大変ですが、やりがいのある委員会です。

8
よくよの練習

よくよはイントネーションつまり
声の上げ下げです

次に書いてあることが、聞いている人に伝わるように言ってみましょう。

もしもし (呼びかけるように)	それはちがいます (強い言い方で)
これは、何ですか (疑問の言い方で)	走るのが、速いね (感心した言い方で)
これは、私のですよね (ねんをおす言い方で)	それを持ってきて (命令する言い方で)
やっぱり、みんなの言うとおり (認める言い方で)	なるほど それで分かりました (なっとくした言い方で)
あっ、これは あなたのよ (発見した言い方で)	もう、歩きたくない (ほんとに疲れた言い方で)

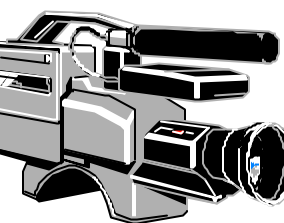
9
機材の片づけも大事な仕事

アナウンサーは片づけ上手

放送室にはいろいろな機械があると思います。放送をするためにたくさんの機械が使われているのですから、アナウンサーにとって機械はとても大切なものなのです。

「自分には直接関係ない」なんて考えないで、いろんな機械を大切にしましょう。

どれかが1つでも故障すると、校内放送が、できなくなることもあるのです。



授業の関係で、ぎりぎりになって放送室に入っても、前の時にきちんと使いやすく片づけてあると、すぐ放送がスタートすることができます。機械の片づけや、放送室の整理は、アナウンサーにとって大切な仕事のひとつです。

マイクのコードはやさしくあつかいましょう

マイクのコードが、からまったり、いざ、話し始めたときに、音が出なかったりしたことはありませんか？

マイクやコードを乱暴（らんぼう）にあつかうと接続部分がいたんでしまって、接触（せつしょく）が悪くなることがあります。

ねじったり、振り回したりしないで、大切に扱（あつか）いましょう。



電源・戸じまりも忘れずに

放送室のカギを、取りに行くところから、アナウンサーの仕事が始まるのですから、カギを返しに行くまで仕事になります。

アナウンサーとして、放送委員の一員としての責任があるし、それだけやりがいのある仕事だと思います。



全校のみんなが、きっと校内放送を待っています。こらからも がんばってくださいね。

